

令和 6 年度 アクションプラン 2

重点項目	基礎学力の確立		
重点課題	自分の考えや思いをもち、相手に分かりやすく伝えることのできる児童の育成		
現 状	昨年度は、児童が、学校・家庭で計画的にタブレットを活用することで、楽しく操作技能を習得できることを目標とした。その結果、100%の児童がタブレットを使う力が高まったと感ずることができた。しかし、タブレットの基礎的な操作技能は習得しているが、表現等で、有効に活用するまでは至っていない。新しい時代を担う児童にとって、自分の考えや思いを相手に正しく分かりやすく伝えることは、学習の基盤となる資質・能力の一つである。そこで、今年度は、自分の考えや思いをもち、タブレットを含めた様々な手段を用いて、相手に分かりやすく伝えることのできる児童の育成を図っていききたい。		
達成目標	自分の考えや思いを相手に分かりやすく伝えることができたとして自己評価する児童が70%以上		
方 策		評価	
		中間	年度末
①	授業の中で、児童が自分の思いや考えを絵や図、プレゼンテーションソフト等、発達の段階に応じた道具を活用しながら発表する機会を設ける。	B	A
②	学校や家庭等、様々な場面で、相手の気持ちや立場を考えて自分の思いや考えを伝えることができるように振り返りの場面を設ける。	B	A
総合評価	A		

<評価基準> A…達成した B…ほぼ達成した C…あまり達成できなかった D…達成できなかった

取 組 状 況	
1 達成目標の実態	「授業の中で自分の思いや考えを相手に分かりやすく話したり書いたりすることができましたか」のアンケート結果では、「よくできた」「まあまあできた」と答えた児童が89%、「よくしていた」「まあまあしていた」と答えた保護者が79%と、概ね達成していた。しかし、他の項目を見ると、「自分の思いや考え方を表現するときに、絵や図を使って説明することができましたか」という質問では、「よくできた」「まあまあできた」と答えた児童が71%、「お子さんは家族の気持ちや立場を考えて自分の思いや考えを伝えていましたか」という質問では、「よくしていた」「まあまあしていた」と答えた保護者が68%だった。様々なツールを使って分かりやすく伝えようとする児童が少ないことが分かった。また、児童は、相手の立場を考えて話をしているつもりでも、受け手である保護者には十分に伝わっていないことが考えられる。
2 方策について	①については、絵や図、パワーポイント等、学年の発達段階に合わせた道具を活用しながら発表の機会を設けることができた。どの学年も意欲的に発表することができた一方で、相手の伝えたいことが何なのか考えながら聞くなど、聞き手としての基礎的な能力が十分に身に付いていないことが分かった。また発表者も、調べたこと等について、書きまとめたものを読むのに精いっぱい、相手を意識して発表できた児童が少ないように感じた。 ②については、様々な場面で、相手の気持ちや立場を考えて自分の思いや考えを伝えることができるように振り返りの場面を設けることができた。しかし、学校生活の中で、今、相手がどのように思ったり感じたりしているのかを想像できないまま、相手は分かってくれているという思い込みで言動を取ってしまうため、トラブルとなる場面もみられた。
3 今後の課題と改善策	・1学期に作成した「聞くこと話すことハンドブック」を活用し、大事なことを落とさない聞き方や、相手に伝えたいことが伝わるための話し方の基礎について、機会を捉えて指導していく。 ・道徳科や学級活動等の機会に、ソーシャルスキルトレーニング等を実施し、相手の気持ちや立場を考える活動を取り入れるようにする。 ・教師の声かけ等により、児童の表現活動に対する自己肯定感は上がったと考えられる。今後も継続し、他教科とも連携を図りながら、より分かりやすく相手に伝えることについて深めていきたい。